

特集◎なぜ働くのか? 総力取材で問う「仕事の本当の意味」

2018

5

No.46

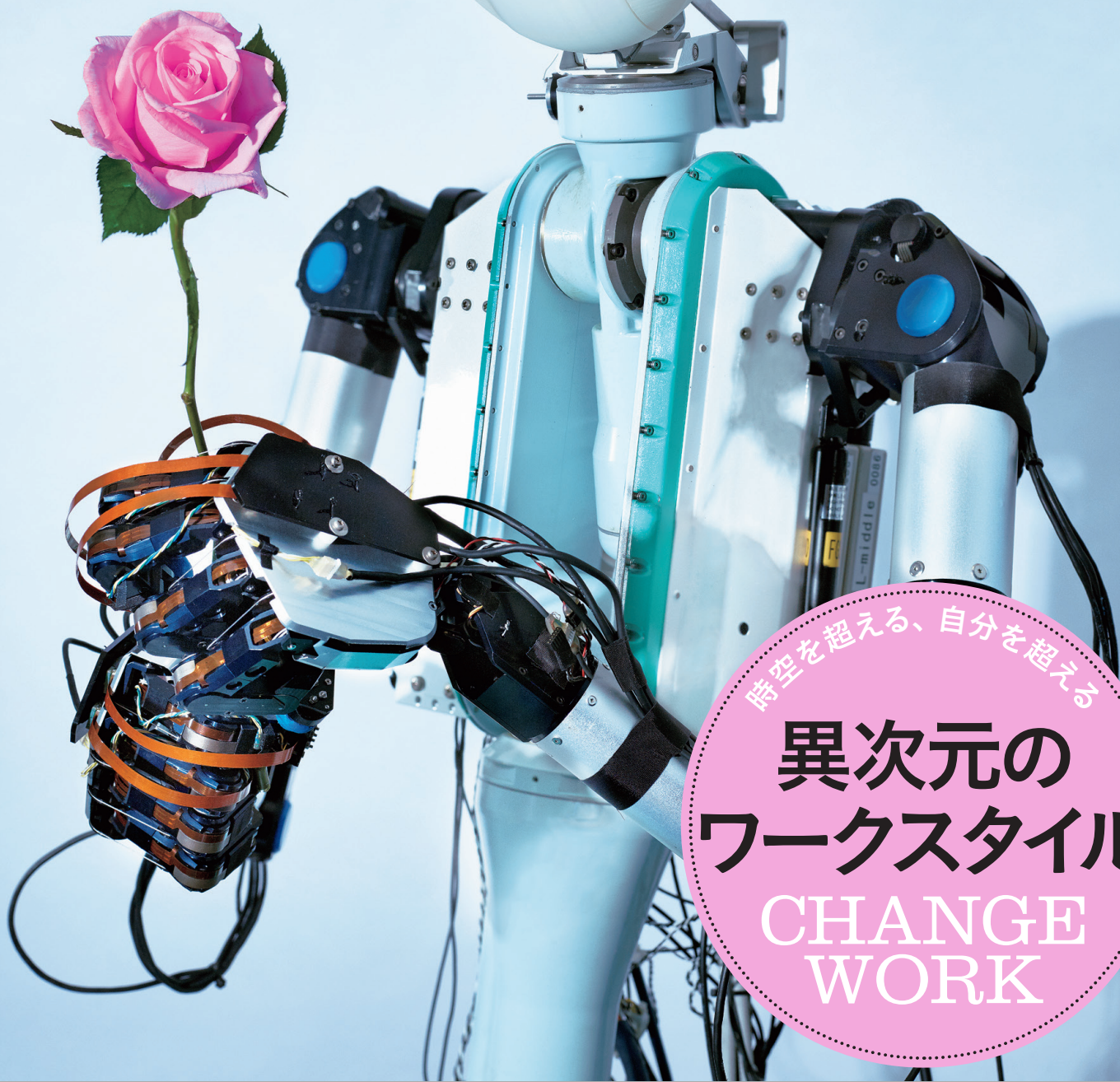
定価890円

Forbes

JAPAN

TELEXISTENCE ROBOT

働き方を異次元に導く
「幽体離脱」のテクノロジー



時空を超える、自分を超える

異次元の
ワークスタイル
CHANGE
WORK

KOMAZAWA UNIVERSITY

超一流は、なぜ日常に「禅=ZEN」を採り入れるのか

長谷部 八郎 駒澤大学学長

420年以上にわたって息づいてきた駒澤大学の建学の理念は、グローバル資本主義が行き詰まる現代に「利他の精神」に基づく新たな可能性を提示し、次世代を切り拓く人材を育てている。

学長、長谷部八郎が世界中のエグゼクティブを魅了する、仏教、禅の奥深さを語ってくれた。

text by Hiroshi Shinohara | photographs by Shuji Goto | edit by Akio Takashiro

篠原 洋 = 文 後藤秀二 = 写真 高城昭夫 = 編集

混迷する時代を生き抜く力を育む 駒澤大学の建学理念

——国際情勢の変化、テクノロジーの進化などによって、現代のビジネスパーソンには創造力や対応力、コミュニケーション力など多彩な能力が求められています。生き方、働き方が難しくなっている時代にもかかわらず、あらゆる産業で駒澤大学の卒業生が目覚ましい活躍をされている理由をどのように分析されていますか。

長谷部：私立大学というのは、固有の建学理念の下で、学生の素質をいかに伸ばしていくかを中心に据えて、進むべき方向性を明確にしなければなりません。いかなる時代において

も、社会貢献につながる有意な人材を育ててこそ、大学はその役割を果たせるのだと考えています。駒澤大学では、企業の求める最新の知識、専門性を学生に提供したいという思いから、最先端のICT設備を完備した新校舎『種月館』の運用を今年4月より開始します。人材というのは、社会資本のいちばんの中核になるものですから、実用的なスキル、知識を学生に提

供するために設備投資を行うのは、大学として当然の発想です。社会資本としての能力は、厳しい状況に直面したときに、真価を発揮します。そして、それを磨き、補強するもうひとつの力、つまり直感力、共感力、行動力など、「生きる力」を養うのが文化資本力です。駒澤大学の場合、「仏教の教えと禅の精神」という建学の理念が文化資本力を高める礎です。本学の伝統や歴史が生み出してきた独自の精神が時代をとらえる有効な手段として認められ

ているでしょう。おかげさまで駒澤大学の取り組みは、金融、建設、航空、情報などさまざまな産業界から好評で、本学の高い就職率につながっています。

——駒澤大学のルーツ

である「学林」は、文禄元（1592）年に曹洞宗が、仏教学、禅の修行、漢学の振興を目的に設立しました。420年以上の伝統を継承してきたわけですが、文化資本の背景にある歴史のもつ力をどのように学生に伝えているのでしょうか。

長谷部：「仏教の教えと禅の精神」にもとづく本学の教育は、学びと自己形成は表裏一体であるという考え方に立っています。

学生は、自分の進むべき道を自分の力で見極め、社会にどう貢献すべきか自発的に学んでいくことが望ましいのです。そのためには、時間という概念のとらえ方が非常に大切になってきます。禅の世界に限らず、およそ宗教文化的な時間というのは、動と静の要素の組合せでつくられていて、正確無比に刻んでいく時間の観念とは異なる意味合いを含んでいます。例えば、宗教的な修行というのは、日常の時のなかで己と向き合うわけですが、心の中はダイナミズムに満ちた壮大な時間を旅している状態になることがある。動と静が絶妙に絡んで、心の奥に潜んでいる活力を引き出すのです。こうした体験が精神性を高めるのです。むろん駒澤大学の学生たちの大半は、厳しい修行を実践するわけではありませんが、それでも420年以上の伝統を肌で感じ、独特な雰囲気の中かで自己形成を目指します。これが駒澤大学ならではの教育効果を生んでいるのだと思っています。

スティーブ・ジョブズが経営哲学に採り入れた、禅の精神、和の心

——駒澤大学では坐禅の実習が教育プログラムに採り入れられています。卒業後は曹洞宗の僧侶になられる方もいらっしゃる

“ 学問は、人と人との
つながりのなかで
生かされてはじめて、
価値を見出せる ”

ますが、このカリキュラムは一般企業に就職を希望する学生にも人気があるそうですね。

長谷部：とりわけ静の観念に禅は深くかわります。宗教者としてその道を極めようとする人は別ですが、一般社会を生きる人々にとって、モチベーションや活力は絶対に必要です。こうしたダイナミズムというのは、闇雲に動いている状態ではとらえきれません。ダイナミズムをとらえるには、目先の欲望ではなく、自分が本当にやりたいことを探し当てるのが肝となるので、そのためには自身の心と深く向き合わなければなりません。一定の作法に則って行う坐禅は、心身をそういう状態に導くのです。学生たちが率先して坐禅に取り組む理由のひとつでしょう。

——駒澤大学のもつ文化資本力は世界中に大きなインパクトを与えています。一例を挙げると、アップルの創業者、スティーブ・ジョブズは禅の教えに共鳴し、彼の経営哲学に大きな影響を及ぼしたといわれています。そのジョブズが師事したのは



駒澤大学出身の曹洞宗僧侶乙川弘文師です。ジョブズの影響もあり、アメリカでは自分自身の可能性を広げる鍛錬法として禅が経営者やアスリートの間で驚くほど定着しています。また、欧米を中心にマインドフルネスという新たな観念が大きな広が

りを見せています。

長谷部：多様な価値観が交錯する現代を生きていくうえで、欧米ではアカデミックな部分でも東洋の思想や思考のあり方にヒントを求めようとする仮説が出てきています。マインドフルネスは、いわゆる学術



はせべ・はちろう◎1950年生まれ。埼玉県出身。74年慶應義塾大学商学部卒業。82年駒澤大学大学院人文科学研究科社会学専攻博士後期課程満期退学。96年同大学仏教学部助教授。2002年同教授。17年学長就任。日本宗教学会常務理事・評議員、日本山岳修験学会副会長。

用語として使う禅とは区別して考えなければなりません。一般の人が一般の生活のなかで自分のメンタルを高めようとする、そういう文脈のなかで禅と関連付けてマインドフルネスを世の中に啓蒙していくのはとても有益なことではないでしょうか。現在体験していることに自分の心を傾注するメンタルなプロセスがマインドフルネスですから、どんな領域にも応用できます。そ

の意味で禅の歴史、伝統をベースにして、そこから派生的に生み出された観念といえるでしょう。駒澤大学では今後、文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に採択された『『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業』を世界に向けて発信していきます。曹洞宗、臨済宗などの協力を得て、現代を生きる人々のメンタルにもっとフォーカスを当

てていこうという取り組みで、いわゆる「ZEN」の可能性を広げていく役割を担う事業です。伝統に改善、改革を加えてそれを刷新していくという考え方は、伝統の否定でもなければ、歴史の塗り替えでもありません。伝統を保持しながら、新たな可能性につなげていくことが大事なのです。

——仏教はインドから中国に伝わり、日本に伝来されてきたときにははるごく精緻化されたように思います。「茶道」や「華道」など余計なものを削ぎ落とす日本の文化と、仏教の教えとは無縁ではありません。ジョブズが日本の禅に共鳴したのは、そういう部分を感じたからではないでしょうか。

長谷部：神学の世界では、歴史のなかで変容したものを、正道に対して邪道、正統に対して異端として位置づける見方があります。しかし、現実の世界では変容しない文化など存在しません。仏教は長い歴史のなかでアジアから世界へと広がったわけですが、さまざまな国の文化、文明をくぐり抜けて、それぞれの人間生活にとって不可欠な存在となったのです。見方を変えれば、むしろ、変容して当然だと言えるわけです。中国的な変わり方、日本的な変わり方、そのどちらが正しいかを議論することに生産的な意味があるとは思えません。それぞれの国の文化に柔軟に対応し

駒澤大学の就職力

就職決定率

(2017年3月31日現在)

97.4%

求人企業数

(2017年3月31日現在)

14,726 社

求人倍率

(出典：リクルートワークス研究所
2017年3月卒業生対象)

5.16 倍

駒澤大学では、一人ひとりの学生に向けてきめ細かな就職支援を実施している。業界研究講座をはじめ、各種資格試験、公務員などの対策講座は300にも及ぶ。建学の理念で育まれた人間力と手厚い支援体制によって高い就職率を実現している。

てきたからこそ、仏教は魅力的なのではないでしょうか。つまり、ジョブズのように日本の仏教に関心をもつ海外の人が、それを通して日本固有の文化にも興味を抱いてくれるという現象が素晴らしいのです。

仏教、禅の教えを通して、日本の心を世界に発信する

——駒澤大学は、日本の文化、伝統に共感を抱く海外の学生から、留学先としてもたいへんな人気を誇ります。また、地域の人々も彼らを歓迎し、積極的に支援されているようですね。

長谷部：駒澤大学を留学先に選んでくれる学生は、専攻が社会科学系だとしても、本学が日本の精神文化を支える重要な伝統を継承しているという視点をもって入学してきます。日本の文化、和の心などを含めて総合的に学びたいという思いが伝わってくるのです。その前提として、日本社会の構造そのものを魅力的なものにとらえてくれています。特筆すべきなのは、そのことを駒澤大学が所在する世田谷区の人々がよくご存知だということです。これまで留学生のホームステイ先として地域の方々には多大な協力をいただいておりますが、一方で地域の方々からも留学生から語学を学べるとか、他国の文化を知るよきき

かけになったと感謝されることも多いのです。地域の方々から多くの支援をいただいているのですから、大学としてこれほど幸せなことはありません。

——文部科学省は盛んにグローバル化というものを強調しています。一方で地方創生の問題もあり、文科省の大学への課題の示し方は複雑になってきています。

長谷部：駒澤大学は、現在、世界の16大学と協定を結び、国際感覚豊かな人材

の育成に力を注いでいます。一方で、私はグローバル化とローカライゼーションを異なるベクトルとして見るのではなく、両方を融合させる考え方がとても大事ではないかと思っています。昨

今の言葉でいえばグローカライゼーションということになるのですが、前述したように、駒澤大学と周辺地域が一緒になって、グローバルとローカルを結び付けていく考え方もあると思っていますし、また、私たちのモチベーションを出すには、宗教文化を中核に据えたアジアとの交流を拡大していくことが大切だと思っています。地域社会との協力、アジアとの協力、こうした枠組みのなかで、日本の精神文化の歴史と伝統を含

め、多様性に富んだ仏教の魅力を世界中のあらゆるエリアに広げていくことを大きな目標としています。

——禅の精神性が世界に広まっていくなかで、禅の言葉もクローズアップされ始めています。これからの社会を牽引していく若者にひとつ言葉を送るとしたら、どんな言葉を選びますか。

長谷部：禅宗の言葉に「百尺竿頭一歩を進む」というものがあります。長く険しい

道のりを経て、目的地にやっとの思いでたどり着いた。ふつうはそこがゴールと考えますよね。しかしそこで満足せず、さらに先に進むというのが「百尺竿頭」の教えです。どんなに

成功してもそこで満足してはいけない、悟った気持ちになってはいけない、生きている間にゴールはないという意味を含んでいます。禅語には、シュールな言葉のなかに深い示唆が内包されています。独自の世界観のなかで、現実を再解釈する面白さがあるのです。「百尺竿頭」の言葉には、ものごとをやり遂げる力、くじけない心を育てるためのヒントが隠されているといえましょう。①

“一流の人たちは、日常にはない特別な体験をしているからこそ、謙虚な姿勢を崩さない”



種月館

2018年4月から運用が開始される開校130周年記念棟。最先端のICT設備が整う都市型キャンパス。



禅文化歴史博物館

禅の文化と歴史をテーマとした博物館。一般公開されている。東京都選定歴史的建造物。



坐禅堂

禅学の研究施設「禅研究館」の4階に併設。140人が同時に坐禅を行うことができる。